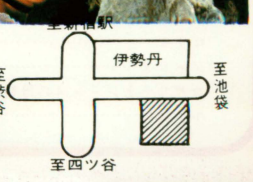
3月3日(土)より大公開！

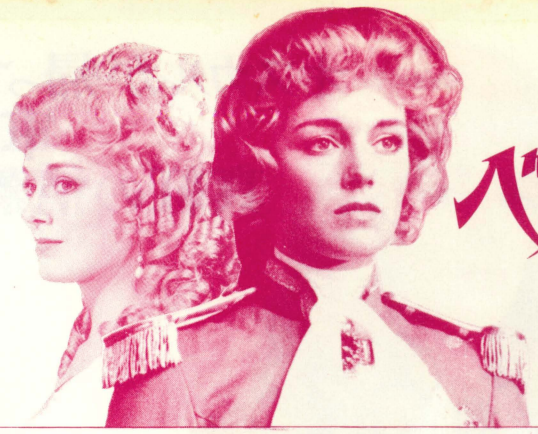
新築開場・伊勢丹前

新宿文化 シネマ2

☎ (354) 2098

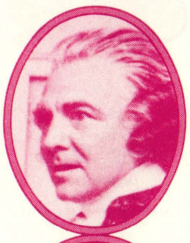


Lady OSCAR



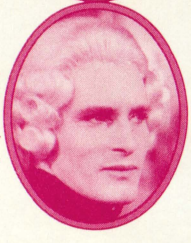
ベルサイユのばら

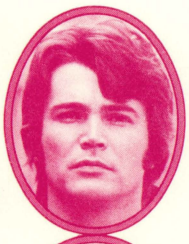
製作●山本又一朗
監督●ジャック・ドゥミー
原作●池田理代子（ベルサイユのばら 集英社刊）
カラー作品●パナビジョン
製作●キティ・ミュージック・コーポレーション
製作提携●資生堂・日本テレビ・東宝


ジャルジェ将軍

ジャンヌ

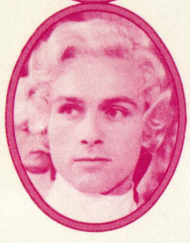
ロザリー


ジェローデル


アンドレ

マリー・アントワネット

ルイ16世


フェルゼン

Lady OSCAR 華麗な原作「ベルサイユのばら」

フランス革命直前のベルサイユ宮殿を舞台に男装の麗人オスカルや、王妃マリーアントワネットら、実在架空の人物が繰り広げる華麗な物語は、昭和47年、82週の長期にわたり「週刊マーガレット」に連載され、その後単行本として800万部という驚異的な記録を作り上げた池田理代子の原作。劇画という枠を破って若い女性に熱狂的に迎えられた話題の作品。

Lady OSCAR 不可能といわれた原作の映画化に斬新な製作方法で挑戦

プロデューサーの山本又一朗、原作の池田理代子を除いて、全スタッフ・キャストが外国人という純粋な洋画として製作され、10億円という日本映画界での史上最高額の製作費が資生堂・日本テレビ・東宝の3社によって用意された。

Lady OSCAR ベルサイユ宮殿にて30年ぶりの撮影

撮影はCNC（フランス中央映画庁）の協力を得てパリ近郊で行われたが、その中でも、ベルサイユ宮殿内の撮影はその白眉。宮殿内に劇映画のキャメラが入ったとのニュースはパリッ子のド肝を抜いた。宮殿内の数々の調度装飾が物語の華麗さにさらに豪華さを加えている。

Lady OSCAR オスカルに期待の新星カトリオーナ・マッコール、そして国際性豊かなキャスト

主演のオスカル役を決めるため欧米各地でオーディションが行われ、その数は400名。選ばれたカトリオーナ・マッコールは10才の時からロンドンのロイヤルバレエ団に学んだ経歴を持つイギリス人。その優雅さ、凛々しさはまさにオスカルそのもの。主人公オスカルに献身的な愛を捧げるアンドレ役にイギリスの若手俳優バリー・ストークス、悲劇の王妃マリー・アントワネットにオーストリアのクリスティーナ・ボーム。貴公子フェルゼンにはスウェーデンのジョナス・ベルクシュトロームとキャストは全世界から集められた。

Lady OSCAR 監督は「シェルブールの雨傘」のジャック・ドゥミー、音楽にミシェル・ルグラン

監督をするにあたって原作のもつファンタジーに魅せられて彼は全ての人々が楽しめるファンタスティクな映画を作るとその抱負を語り、音楽には数々の映画音楽を手がけ今や世界的な巨匠のミシェル・ルグランを起用。シナリオはアメリカの女流脚本家パトリシア・ナップ。監督を助け製作の管理を引き受けたのが女流監督として名高い妻君のアニエス・バルダ。その重厚なスタッフと国際性豊かなキャストが不可能と云われた夢の実現に挑んだ。

Lady OSCAR 物語

一七七五年、ジャルジェ将軍家に生まれた女の子はオスカルと名付けられ男として育てられた。成長したオスカルはルイ16世のもとに嫁いだオーストリア皇女マリー・アントワネットのもと、王妃付き近衛隊に配属され、ベルサイユ宮殿に移った。そこには皮肉な運命が待っていた。男のように歩き、話し、考えていたオスカルは、こともあろうかアントワネットの愛人、スエーデンの青年貴族フェルゼンに恋心を抱くのだった。軍服の下の彼女の秘密を彼が知るはずがなかった。ただ一人幼い時から一緒に育てられ、平民として王宮の厩番をするアンドレだけが彼女の苦しみを知り、女としての彼女を深く愛していた。ある舞踏会でアメリカの独立戦争から戻ったフェルゼンの前にドレス姿で現れた彼女はフェルゼンの本心を知った。「私が他の女性に身も心も捧げていなかったら……」。オスカルは二度とドレスを着ようとはしなかった。軍務に励む彼女をみつめるアンドレ。宮殿の華やかさにひきかえパリの町は貧しさに溢れていた。フランスの現実と女である自分に気づいたオスカルを包んで時は静かに革命へと流れだした。

●キャスト

オスカル	カトリオーナ・マッコール
アンドレ	バリー・ストークス
ジャルジェ将軍	マーク・キングストン
マリー・アントワネット	クリスティーナ・ボーム
ポリニャック夫人	スー・ロイド
フェルゼン	ジョナス・ベルクシュトローム
ロザリー	シーラ・マクロード
ジャンヌ	アヌーシュカ・ヘンペル
ロザリーとジャンヌの母親	カディーヌ・コンスタン
ルイ16世	テレンス・バッド
ジェローデル	マーティン・ポッター
ローアン司教	グレゴリー・フロイ
ベルナール	マイケル・オズボーン
乳母	コンスタンス・チャップマン
ロベスピエール	クリス・エリソン
ニコラ・ド・ラ・モット	マイク・マーシャル
王太子	ポール・スペリアー

●スタッフ

製作	山本又一朗
原作	池田理代子「ベルサイユのばら」集英社刊
監督	ジャック・ドゥミー
脚本	パトリシア・ルイジアナ・ナップ
撮影	ジャン・パンゼ
美術	ベルナール・エバン
音楽	ミシェル・ルグラン
製作管理	アニエス・バルダ
製作	キティ・ミュージック・コーポレーション
製作提携	資生堂 日本テレビ 東宝
配給	東宝株式会社